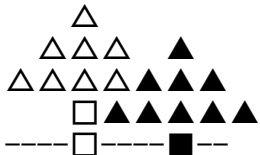


2003/10/02 =====



北海道立林業試験場メールマガジン

『北の森の達人』

Vol. 03 第3号

□■□読者の皆様へ□■□

北海道立林業試験場メールマガジン『北の森の達人』は、北海道の森林・林業・身近なみどりに関わる情報を皆様に直接お届けするメールマガジンです。



□■□目次□■□

■刊行物ダイジェスト	グリーントピックス No. 29 平成14年度 北海道林業試験場年報 グリーンメール No. 10
■ホームページの紹介	平成14年度 北海道の緑化樹木生産状況
■森林Q & Aで解決!	加害動物特集
■今日の達人のささやき	道東支場長 中田圭亮



■刊行物ダイジェスト1 . . . グリーントピックス No. 29 (2003. 9発行)

◇刈払い作業の機械化の取り組み

林業の機械化は、伐出作業ではプロセッサなどの導入が進んでいますが、育林作業の機械化は遅れています。植生が豊かな我が国の造林では地拵えと下刈りが不可欠ですが、刈払い用の機械は一部で輸入機械が使われているほかは、広く実用化されたものはありません。林野庁の補助事業で日本の造林地に合った刈払い機械が開発されたので、実際に現地で作業して調査しました。

◇衛星画像による風倒被害の把握 -2002年十勝地方の事例-

2002年10月2日、北海道を縦断した台風21号によって十勝支庁管内で約8,400haの風倒木被害が発生し、池田町、浦幌町のカラマツ・トドマツ人工林を中心に樹木の根返り、幹折れ、曲がりなどの被害を受けました。

被害箇所を特定する作業は、現地調査で目視により行われますが、今回のように大規模な面積で災害が起こると、調査に大変な労力を必要とすること、現地に入れられないために被害状況を把握しきれないといった事態が生じます。今回、2000年から打ち上げられている航空写真とほぼ同等の分解能(0.6~1m)を持つ高分解能衛星の被害前後の2枚の画像を使用し、風倒被害箇所の把握を試みました。

◇地表処理は野ネズミによる種子捕食を軽減する

ササが林床に密生する北海道の森林では、ササを除去する地表処理(かき起こし、刈り払い)が、森林を再生する方法として大きな成果をあげています。ササの除去により光条件が向上し、種子の発芽や実生の定着がしやすくなるほか、ササが除去された場所では野ネズミによる種子の捕食や実生の食害が少なくなると考えられています。そこで今回、地表処理が種子の捕食に及ぼす影響を調べるため、道南のブナ林でササ林床と地表処理(かき起こし、刈り払い)後の裸地にブナ種子100粒を皿に置いて、その消失過程を比べてみました。調査は、地表処理当年のほか2年後にも行いました。

◇樹木画像を利用したCGによる景観設計

道路や公園、施設などの緑化を計画する際に、コンピュータグラフィックス(CG)を用いて樹木の植栽による景観の変化を簡単に表示することができれば、植栽する樹種や樹木の配置などを視覚的に分かりやすく検討することが可能になります。

林業試験場では、樹木の写真から背景を除去した樹木画像を111種、約2,000枚収録した樹木画像データベースを作成しました。収録された樹木画像は、背景が除去されているため、植栽予定地の画像に重ねて貼り付けることができます。このため、市販のグラフィックソフトを用いて、樹木植栽後のリアルなイメージを誰でも簡単に作成することができます。

<-刊行物詳細情報->

<http://www.fri.hro.or.jp/kanko/topics.htm>

■刊行物ダイジェスト2 . . . 平成14年度 北海道林業試験場年報 (2003. 9発行)

◇平成14年度試験研究課題

- ◇平成14年度試験研究の概要
 - ◆企画指導部（3課題） ◆林業経営部（16課題） ◆森林環境部（6課題）
 - ◆森林保護部（8課題） ◆緑化樹センター（10課題） ◆道南支場（3課題）
 - ◆道東支場（3課題） ◆道北支場（1課題）
 - ◆外部との共同研究（10課題）
- ◇研究発表業績
- ◇技術指導並びに普及
- ◇物量の分析及び鑑定
- ◇林業専門技術員の活動実績
- ◇総務

<-刊行物詳細情報->
<http://www.fri.hro.or.jp/kanko/nempo.htm>

 ■刊行物ダイジェスト3・・・グリーンメール No.10（2003.9発行）

- ◇庭木の冬囲い
 - ◆冬囲いの目的
 - ◆冬の気候と樹木の被害
 - 雪の多い地域（主に北海道西部から中央部）
 - 雪の少ない地域（主に北海道東部）
 - ◆冬囲いの時期
 - ◆積雪による被害を防ぐ冬囲い
 - 高い樹木 ○低い樹木 ○生垣 ○低い樹木の冬囲いの手順
 - ◆寒風による被害を防ぐ冬囲い
 - ◆冬囲いの留意点

<-刊行物詳細情報->
<http://www.fri.hro.or.jp/kanko/kitam/kitamindex.htm>

 ■ホームページの紹介・・・平成14年度 北海道の緑化樹木生産状況

「平成14年度 北海道の緑化樹木生産状況」は、北海道における緑化樹木の生産動向を把握し、今後における緑化事業の円滑な推進を図ることを目的として、市町村、造園業者、生産組合、森林組合、会社、北海道山林種苗協同組合等のご協力により平成14年12月31日現在の生産状況等を取りまとめた緑化樹センター発行資料です。

- 内容は、次のとおりです。
- ◇緑化樹木の生産・払出状況
 - ◇生産・払出状況の図表
 - ◇養成・払出状況の統計表
 - ◇緑化樹木生産報告者一覧表
 - ◇参考資料

<-平成14年度 北海道の緑化樹木生産状況詳細情報->
http://www.fri.hro.or.jp/01ryokka/ryokkajus_h14.htm

 ■森林Q&Aで解決！・・・加害動物特集

- 【Q1】加害動物判定のために、ネズミとウサギとエゾシカの加害の特徴を知りたい。
 【A1】
- ◆ネズミ：枝葉、樹皮、根を加害します。枝葉の場合はウサギの加害に似ますが、いずれの場合もネズミは小さな前歯でかじるため、幅1mmほどの歯の跡が残ります。ネズミによる樹皮の加害は主に積雪中に発生するため、加害部は雪に埋もれる高さまでの範囲です。植え付け直後の樹木では、根が加害され割り箸のようになってしまうこともあります。ナラ類の苗木では根がかじられます。
 - ◆ウサギ：枝葉や樹皮を加害します。ウサギの前歯は大きいため、枝葉の加害部は刃物で切ったような切り口をしています。樹皮の加害された部分には、ネズミより大きな幅3mmほどの歯の跡が残ります。
 - ◆エゾシカ：枝葉、樹皮を加害します。シカは上の前歯がないため、枝葉被害の切り口はきれいな切り口にならず樹皮繊維が残ります。樹皮の加害は、シカがかじった食害と雄が角をこすりつけた角こすりの特徴が異なります。食害では、加害部に下の前歯の歯の跡が筋状に残ります。角こすりでは、露出した木質部は滑らかになっています。
- 【Q2】道内に生息する野ネズミの種類と見分け方を知りたい。
 【A2】道内にはエゾヤチネズミ、ムクゲネズミ、ミカドネズミ、エゾアカネズミ、カラフトアカネズミ、ヒメネズミの6種が生息しています。最初の3種はヤチネズミの仲間、特徴としては、尾は短く、耳は小さく大部分が毛の中に隠れています。後の3種はアカネズミの仲間、尾は長く、耳は大きくほとんどが毛の外に出ています。ヤチネズミの仲間の3種はよく似ており、慣れると背中や毛の色などで見分けることができます。きちんと調べるには解剖し、上あごのいちばん奥の歯を調べる必

要があります。アカネズミの仲間はまず、後ろ足の大きさを調べます。その大きさが小さければ(20mm以下)、ヒメネズミです。

また、ヒメネズミは名前の通り他の2種類より小さいのが特徴です。後ろ足が大きかったら、次に後ろ足の裏を観察します。足の裏には、いぼのようなものが5個もしくは6個が2列に並んでいます。その列の間に顆粒状のぶつぶつがないのがエゾアカネズミ、あるのがカラフトアカネズミです。アカネズミの仲間も、慣れれば簡単に見分けがつきます。

【Q3】庭木や街路樹をネズミの被害から守るにはどうしたらよいか？

【A3】ネズミは草むらやササ地を生息場所としているので、ネズミが住みにくいように草が生えていればきれいに刈ることで、ネズミは冬の間にもいくらか移動するので、周辺の草刈りも行い、樹木とネズミが出会わないようにします。

もうひとつは、樹木一本一本に手をかけてネズミがかじれないようにする方法です。目の細かい金網や塩化ビニール管などを縦に割り、幹に巻きつけます。巻きつける高さは地上から最大積雪深まで行うと安全です。雪に埋もれてしまうので取れないようにしっかり巻きつけることが大事です。巻きつけは秋に行い、春にはずします。同じくかじられないようにするという点では、ネズミが嫌がる薬剤(忌避剤)を塗る方法もあります。

【Q4】治山事業で播種したマメ科植物や牧草がエゾシカに食べられて困っている。エゾシカがあまり好まない植物にはどんなものがあるか。また、忌避剤があれば知りたい。

【A4】エゾシカの食べ物は、草本類から樹木の葉・枝・樹皮など広範にわたっていますが、中には嫌いなものもあり、オオハンゴンソウ、フッキソウ、トクサなどがエゾシカが好まない植物として知られています。また、忌避剤は、カラマツやトドマツなどの樹木に対して、ヤシマレント(有効成分チウラム)、コニファー水和剤(有効成分ジラム)が使われています。

<-森林Q & A 詳細情報->

<http://www.fri.hro.or.jp/q&a/index.htm>

■今日の達人のささやき

道東支場の中田圭亮です。

北海道では野ネズミとエゾシカによる樹木への被害がたいへん目立っています。30年ほど前まではユキウサギ(いわゆる野ウサギ)が野ネズミと被害額を競っていましたが、最近はエゾシカに入れかわっています。

今号のQ & A 特集は獣害に関心を持つ方には参考になることでしょう。

私はこれまでネズミを研究してきましたが、今日では被害問題のほか新たな要請も試験場に寄せられています。そのひとつが、フクロウやイタチ、ヘビなどの餌動物としてのネズミのはたらきです。こうした生物多様性に向けての挑戦も考えているところです。

////////////////////////////////////

■発行・編集

北海道立林業試験場

〒079-0198 北海道美唄市光珠内町東山

■問い合わせ担当

企画指導部森林情報室情報管理科

メールマガジン専用電子メール mmgadmin@hfri.pref.hokkaido.jp

■記事の取り扱い

北海道立林業試験場メールマガジンに掲載された記事を転載することはご遠慮ください。

////////////////////////////////////